

# 「町制施行50周年・宗谷管内移管記念」シリーズ

## No. 2 過去の支庁移管問題

幌延町は地理的条件はもとより、住民の生活圏、医療圏等あらゆる面において稚内市を中心とした宗谷圏との結びつきが強いことから、平成20年2月1日に北海道知事へ宗谷総合振興局に所管されるよう要請書を提出しました。平成20年6月の北海道議会第2回定例会において「北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条例」を議決。平成22年4月1日に条例が施行され、幌延町は宗谷総合振興局の所管となりましたが、大正と昭和の時代にも支庁移管が問題になったことがありました。

### ○大正時代の支庁移管の請願

北海道の各支庁の行政区域は、交通も発達していない開拓期の明治30年(1897)に設定され、幌延村は増毛支庁に属しましたが、大正3年(1914)には留萌支庁へ移りました。その後、大正15年に国鉄天塩線(現 宗谷本線)が稚内まで開通したことで、幌延村は宗谷支庁の所在する稚内町への交通の利便が大きく向上し、現状の行政区域では不合理な地域となりました。

豊富町史には『・・・幌延村から分村以前の大正15年、天塩、幌延、遠別、中川の各村が協議の結果、留萌、上川支庁から宗谷支庁へ移管の請願をしたことがあった。しかし、このときは戦時中で実現できなかった。』とあります。さらに『その後、昭和22年に再度この事情を関係各村に呼びかけをしたが、他の町村からは希望がなかったため、豊富村のみ単独で陳情したところ、昭和23年10月20日に正式に移管が認められ、以来宗谷支庁管内の行政区となった。』と記述されています。

### ○昭和27年の支庁移管問題

昭和27年2月1日北海道新聞に『幌延村、宗谷支庁編入か 行政上の支障が理由 正式申入れで表面化』と題した記事が次のように掲載されました。

「かねてから宗谷支庁管内へ支庁管轄区内の変更を要望していた留萌支庁管内幌延村では、最近それが次第に濃化このほど谷内助役、村議会安田総務委員が宗谷支庁に対し直轄区域の変更申入れ 表面化するに至った。」とあり、その背景として、「・・・なにか会議があると、わざわざ旭川経由で出留せねばならず、そのうえ留萌支庁管内にありながら労働基準監督署、保健所、税務署、専売公社など 行政機関はすべて稚内にあり、この不便を感じていたもので、わずか2時間余りで来稚でき、いろいろ用件を足しても日帰り可能である宗谷支庁管内へ管轄変更することが一番望ましいというわけで今回の申入れに及んだ・・・」となっています。

しかし、2月3日北海日日新聞では『幌延編入問題はデマ 宗谷支庁の "政治的駆け引き" と判る』と題した記事が掲載され、幌延村が亜麻工場と稚内が猛運動中の火力発電所施設の候補地に上っているところから、宗谷支庁に編入した方が何かつけて便利であり、宗谷支庁で積極的に誘い水をかけて流した情報で、幌延村当局は "村から正式申入れした事実なし" と否定している、と報じています。

さらに2月5日北海日日新聞では『更に微妙な雲行き 幌延村の転入問題 漁業権の紛争が絡む』と題した記事が掲載され、天塩海区のサケ定置漁業権について自営を強行しようとする天塩・幌延両漁協組と、自営を拒否する調整委員会が正面衝突し物別れとなり、もし両漁協の要求がけられた場合、幌延村の漁民は宗谷支庁管内編入に拍車をかけようとする雲行きを見せている、と報じています。

そして2月22日北海日日新聞には『"早急に編入望まず" 幌延村の宗谷移管問題 赤松村長の意向』と題した記事が次のように掲載されました。

「・・・赤松村長は次のように語っている。わたしは宗谷支庁編入を希望しているが、村民の声は早急編入を望んでいないようで村民の意に従いたい、編入するにしても現在はいろいろの事業の途中にあり、・・・天塩、遠別もこのような意向をもつとすれば大きな問題でもあるのでいまはその機会でない。」

これにより、昭和27年の宗谷支庁移管問題はようやく沈静化しましたが、当時、幌延村から留萌支庁へは、国鉄で深川を回り留萌本線経由で往復に3日はかかり、地域的また産業、経済の面から見ても留萌よりむしろ宗谷管内に入るのが当然という意見が強くなっていました。



昭和27年2月22日 北海日日新聞

今回の新聞記事は町制施行50周年・宗谷管内移管記念事業「写真で見る幌延町50年展」で展示しますのでご覧ください。このシリーズに関するお問い合わせ又は新幌延町史(1冊5,000円)の購入希望の方は、下記にご連絡ください。

お問い合わせ先 総務課企画振興グループ 電話5-1111(内線222, 223)